

子どもの本や、子どもの読書活動の県内外の情報をお届けします！

山梨県立図書館 TEL055-226-2586 <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

～ 県内のニュースから ～

図書館ボランティアのつどい 2010 開催

2010年11月14日午後1時半から、南アルプス市甲西農村環境改善センターで「図書館ボランティアのつどい」が開かれました。この催しは、ボランティア同士の情報交換、また地域の子どもたちとのふれあいの場として10年以上前から行われています。

主催の図書館ボランティアやまなしは、県内図書館ボランティアのネットワークを支える団体です。今年度で設立10年目を迎えます。代表の齊藤順子氏によれば、前回は新型インフルエンザの影響で参加者も少なかったということですが、今回は親子連れなどでにぎわっていました。1階では各グループで作成した人形や折り紙などが展示され、2階では7グループによるおはなし会が行われました。手遊び、ストーリーテリング、読み聞かせ、パネルシアター、ペープサート…言葉とお話を楽しむプログラムが盛りだくさんで、絵本を見つめる子ども達と、他グループの実践と一緒に楽しむボランティアの方々の表情が印象的でした。



ヤングアダルト

YA作家研究 神永学～ヒーローの創り手～

● 作家になるまで

1974年東京に生まれ、山梨県増穂町(現富士川町)に引っ越す。高校卒業後映画学校に進み、会社勤めを経て2003年『赤い隻眼』(文芸社)を発表。2004年同社から『心霊探偵八雲』として出版され作家デビュー。

● 「心霊探偵八雲」シリーズ

発行されれば書店の週間売上げベスト10(山梨日日新聞、朝日新聞)にランクインする人気のシリーズです。県外でも書店の入口近くに置かれているのを目にします。「一人の青年の成長物語が書きたい」という著者の思いから生まれた主人公の姿が、中高生の共感を得るのかもしれません。登場人物紹介や創作ノート等を収録した『心霊探偵八雲赤い事件ファイル』*を読むと、作品をより楽しむことができます。

● 八雲だけじゃない！ 魅力ある主人公たち

現代の義賊「山猫」…『山猫』(文芸社、2006)
スキャンダルの真相を追及する秋山嘉清
…『パ・ソナル・リスク』『B-Quest』vol.3(文芸社、2006)
バイクに乗った強運の探偵 真田省吾
…『タイム・ラッシュ』(新潮社、2008)など
人の心を翻弄する医師「松崎」
…『コンダクター』(角川書店、2008)

数学しか信じない取調官 御子柴岳人

…『野性時代』2010年3～9月号(角川書店)

○ 神永学を知る(参考資料)

『心霊探偵八雲赤い事件ファイル』(宝島社、2010) *

『ノベルアクト』1 特集心霊探偵八雲&神永学

(角川書店、2010)

「ダ・ヴィンチ」2008年11月号(メディアファクトリー)

「山梨日日新聞」

2007/2/2(金) 11面、2007/10/24(水) 22面

神永学オフィシャルサイト

<http://www.kaminagamanabu.com/> (2011.1.19 アクセス)



児童図書研究書 紹介コーナー

● 『コドモノクニ名作選』 上下巻

アシェット婦人画報社 2010年発行 各256p

1922(大正11)～1944(昭和19)年に刊行された月刊絵雑誌「コドモノクニ」の代表的な挿絵を掲載した本。上巻は絵のテーマ毎、下巻は作家/画家別に並べられています。下巻には創刊の経緯・編集方針・執筆者の初出一覧が収録されており、既刊『コドモノクニ』総目次』上・下(久山社、1998)と併用すると便利です。絵雑誌の研究書として他に『幼年絵雑誌の世界』(高文堂出版社、1989)、『大正期の絵本・絵雑誌の研究』(翰林書房、2009)等があります。

育児に積極的な父親を指す「イクメン」という言葉は、2010年の流行語にもなりました。2009年に育児・介護休業法が改正されてから、厚生労働省の「イクメンプロジェクト」やNPO法人ファザーリング・ジャパンによる「さんきゅーパパプロジェクト」など、父親の育児を促す取り組みが増えています。

★★ 県内のパパ読 ★★

- ・中央市立玉穂生涯学習館豊富分館…男性職員がおはなし会で読み聞かせを行っています。
- ・富士河口湖町生涯学習館…パパ's 絵本プロジェクト富士山チーム(以下P)
パパ's 絵本プロジェクトの方達を招き実演してもらったのをきっかけに始めたそうです。参加者も最初は「アレッ」という感じだったものの今は好評で「子ども達は結構食い付きます」。魅力は男性ならではの声、アクションの付くミッドととのことでした。
- ・都留市立図書館…こぶたの会(以下K)、ひびきの会(以下H)
K: お父さんの読み聞かせが欲しいと思って声をかけた所から始まりました。迫力ある男性の読み聞かせは聞き手の集中力が違い、男性ならではのやさしさも伝わるとか。
H: 会員やおはなし会への参加者に男性が増えてきたことがきっかけ。男性の特徴ある読み方に、聞き手はとても喜んでいそうです。

☆これから読み聞かせを考えているパパへ…

本選びが大切(P)

お父さんが面白いと思った本をそのままの気持ちで読んであげて(K)

子どもには父親の声そのものに親しみがありません(H)

☆各グループから教えていただいたおすすめの本(一部)

『三びきのやぎのがらがらどん』

(マ・ヤ・ブ・ラウ)/え せたていじ/やく 福音館書店 1965)

『おおきなかぶ』(内田莉紗子/再話 佐藤忠良/絵 福音館書店 1966)

『ねないこだれだ』(せなけいこ/さく・え 福音館書店 1978)

『おとうさんはワルツ』(みやにしたつや/作絵 学研 1996)

その他、科学絵本やお父さんを題材にした本、民話、教科書の中の物語など

★ 県内のパパ向け web サイト

「パパネットやまなし」<http://papanet-y.jp/> も稼働中★

★★ 広がるパパ読 ★★

「男声読み聞かせ隊 with Ms」が北海道で、「よみきかせクラブ」の会が和歌山県で活動している他、大分県の「おおいだパパクラブ」で絵本の読み聞かせ講座を開くなど、パパ読は今後も注目されそうです。また、webサイト「絵本だ」にパパ 推薦本紹介ページ「パパ's 絵本プロジェクト」があり、絵本選びの参考になります。

★★ パパ読インタビュー ★★ お父さん司書であるNさんとTさんにお話を伺いました。

—お子さんと絵本を一緒に読むのはどんな時ですか？

N:寝る前や図書館で本を選んでる時です。

T:図書館や書店でというのもありましたが、ほとんどは寝る前でした。でも読んであげているうちにこっちが先に寝てしまい、「あーっ！起きろー！続きは！」と催促されることがしょっちゅうでしたが…。

—ママが読む時との違いなど、読み聞かせを通じて何か感想があればお願いします。

N:パパが好んで読む『もこもこもこ』*1など擬音だけの絵本が、ママは読みにくそうでした。また、『がんばれ！パトカー』*2といった乗り物の絵本は、娘だからママが選ばないジャンルようです。

T:うちは2人とも男の子なので、読んであげる本は男性の登場人物が多かったように思います。お父さんとしては男性が読んであげた方がわかりやすいと勝手に決めていましたが、果たしてどうだったか…。

N:娘が本を読んでもらう人を選んでいるのか、ママと図書館へ行って借りてきた本は昼間ママやおじいちゃんおばあちゃんと読んで、夜寝る時にはパパが借りた本をパパまたはママと読む場合が多いような気がします。

T:「西遊記」*3や「そうべえ」*4シリーズでは、登場人物の声色を変えて読んであげているうちに誰がしゃべっているのか分からなくなってしまったりもしましたが、声色を変えると結構面白がって食い付きがよかったです。

—お子さんのお気に入りの本は？

T:上の子が小さいときは『がたんごとんがたんごとん』*5などもよく読みましたが、「バムと知」「ガウ」*6シリーズは特に気に入っていました。下の子と一緒に『おばけめぐり』*7はよく読んであげました。

N:うちの子は、「ぐりとぐら」*8シリーズと『パリのあたらしいふく』*9ですね。

T:親が好きなので双葉社*10は色々読んでみましたが、特に『イザル式物語』*10は親子で楽しみました。12話のムラサキですがどれも面白くて、「バカリくんの仙人修行」では、「あんただれ？」の所でみんなで爆笑です。読むスピードや抑揚を変えたりして色々遊べる本でした。

☆お父さんもいろいろ工夫をして本を選んだり読んであげたりしているようです。今回の特集はいかがでしたか？「ちょっと子どもと本を読んでみようか」と思っていたいただければ幸いです。御協力いただいた方々、どうもありがとうございました。

*1 谷川俊太郎/作、元永定正/絵、文研出版、1977 *2 竹下文子/作、鈴木まゐる/絵、偕成社、2007 *3 斉藤洋/文、理論社

*4 田島征彦/作、童心社 *5 安西水丸、福音館書店、1987 *6 島田ゆか/作絵、文溪堂 *7 瀬川昌男/原作、スズキコージ/絵、南谷佳世/文、金の星社、2002 *8 中川李枝子/さく、大村百合子/え、福音館書店 *9 エルサ・ベスコフ/さく・え、福音館書店、1978 *10 スズキコージ/作、ブッキング、2005